

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4790100145		
法人名	医療法人城南会		
事業所名	グループホームさつき荘		
所在地	沖縄県那覇市宇栄原3丁目5番14号 3F		
自己評価作成日	平成23年10月14日	評価結果市町村受理日	平成24年1月5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai gokouhyou.jp/kai gos ip/ infomationPublic. do?JGD=4790100145&SCD=320&PCD=47
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 沖縄タイム・エージェント		
所在地	沖縄県那覇市曙2丁目10-25 1F		
訪問調査日	平成23年11月17日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームさつき荘は、利用者を介護するにあたって、「やさしく」、「明るく」、「笑顔」で接することを大切にしている。「目くばり」、「気くばり」、「心くばり」を常に心がけ、利用者の生活を支援しています。利用者の「気持ち」を大切に、生きがいのある明るい生活を送ってもらいながら、認知症の進行を緩やかにし、心身機能の維持・改善を図っている。利用者に身体面・精神面の変化が見られた場合、近隣にある同法人診療所の医師(主治医)、看護師や隣接のデイサービスの看護師等に相談しながら対応し、支援している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は住宅街のビルの3階にあり、近隣に小学校、クリニック、薬局等が隣接している。月に1回の地域の清掃活動に職員が継続して参加し、事業所の啓蒙活動に努めている。事業所内は「整理・整頓・清潔・清掃」の4Sを掲げ清潔感にあふれている。母体が医療法人であり入居者の健康管理や相談等、医療面での連携が取れ家族の安心につながっている。更に同法人のデイサービスが2階に併設され、陶芸や書道、生け花等の趣味活動へ交流も兼ねて一緒に参加する等、入居者の生きがい作りに努めている。

ようええあ

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	日常業務の中で利用者に対する対応、ケアの方法などに理念に関わる課題点、再検討を要する事案がでてきた場合、すみやかにブリーフィングや勉強会を行っている。新人スタッフにも理念を含めた研修(個別指導)を行い、理念に基づいた対応、ケアの方法を実践できるように努めている。	理念の一つ「家庭的な雰囲気の中で、楽しく笑顔があふれる環境作りを心掛ける」を実践する上で、職員は入居者への日常のケアの中で笑顔を絶やさない対応を心がけている。職員に不適切な言動が見られた場合は管理者がその都度注意したり、ミーティング等でも話し合っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	同法人のデイサービスなどと合同で地域の清掃活動を継続しているが、ホームとして、近隣の住民の方々との日常的な交流にまでは至っていない。	入居者と職員は、日頃から近隣の薬局や天ぷら家さんへ行き来し、店員等と馴染みの関係になっている。また、職員が月に1回地域の清掃活動に参加し、近隣住民との交流の機会づくりに努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	見学にきた方や電話問い合わせの方などとお話することあるが、地域の方を対象にした相談会などを持つなどに至っていない。母体法人の診療所地域相談センター等で行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回の運営推進会議を開催している。市町村担当者に利用者の状況や施設の活動・運営状況報告を行い、意見、助言、指導を頂いている。利用者の家族の高齢化、病気や体調不良、多忙などもあり、最近はお家族の参加も呼びかけにくくなっている現状もある。	運営推進会議は2ヶ月に1回、市の担当者と事業所職員を委員として開催しているが、日程の都合が合わず変更したり、入居者や家族、地域代表等への呼びかけも行っていない。会議では事業所の状況報告の他、市の担当者からは、避難訓練の実施について助言等を受けている。	運営推進会議が、事業所にとって地域密着型サービスの役割について幅広く意見や助言等を得る機会として捉え、活用できるよう取り組んでほしい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村担当者から利用者のための法的手続きや施設の運営上の助言・指導をもらって、サービス向上、健全な施設運営のための連携を図っている。	運営推進会議の中で市の担当者とは事業所の実情等を報告している。今年3月にはスプリンクラーの取り付けに関する手続き方法等のアドバイスを受け、完了に至る等協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日常業務の中で利用者に対する対応、ケアの方法などが身体拘束にあたるとおられる場合、ブリーフィングや勉強会をするようにしている。利用者への対応、ケアの方法を変更、修正し、身体拘束をしないケアが実践できるように努めている。	職員の言葉使いや対応が拘束に値すると思われる場合は、その都度管理者が注意しミーティング等で話し合っている。また、ベッドからの立ち上がりで転倒の危険性のある入居者には、家族の同意を得てベッドの変わりに畳の上にマットレスを敷き、自由に動けるよう対応した事例もある。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止についてのマニュアルを備え、職員に認識、周知を行っており、機会があるごとに話している。職員間でも注意を払い、防止に努めている。		

沖縄県(グループホームさつき荘)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護事業や成年後見人制度についての勉強会は今後行う予定であるが、マニュアルを備え付け、いつでも情報を提供できるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項については、時間をかけて説明を行っている。家族や契約者の疑問、不安などをなくし、納得してもらってから契約を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置しているが投函の実績はない。利用者や家族等からの意見、要望等は、管理者に直接、又は職員を通じて寄せられており。管理者はすみやかに対応している。また、管理者は、ご家族が面会のため来所した際などには利用者の近況などの報告、ご家族からの意見・要望などを聞くように努め、信頼関係維持・構築に努めている。	入居者の要望は直接職員が聞き取り、家族からは面会時や担当者会議の参加時に聞くようにしている。家族等の意見が中々得られないので、年に1回アンケートの実施や、定期的に家族と面談して率直な意見を引き出す等の試みを予定している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	利用者への対応、ケアの方法、業務改善などについて、日常業務のなかでも、職員と意見交換に努めている。有用な、実効性のある意見、提案などには、優先順位を決めて、すみやかに対処、対応するようにしている。	職員は毎月のミーティングで意見や提案を発言している。管理者は、新任の職員は一定期間現任の職員がサポートし、入居者が混乱しないよう配慮している。職員の要望で、職員間の連絡用のボードや生け花用の小鉢等の物品を購入している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	月1回のミーティングやその都度話し合いの機会を持ち改善等に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修受講に関する情報提供や受講する機会の確保、OJT(職場訓練)も行いながら介護の知識・技術の向上に努めている。昨年度から法人内研修として、外部の経営コンサルタント会社に委託しての研修が行われている。今年度も管理者研修(年2回)、サブリーダー研修(年3回)が行われており、当ホームからも参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	定例会議、法人内外の勉強会、研修、見学会にも参加するように努めている。		

沖縄県(グループホームさつき荘)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人自身から話を聞く機会を持ち、本人の言動等から本人の心理状態や要望なども理解することにも努め、同時に受け止めるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族等と事業所の役割、家族の役割、連携・協力体制のあり方などについて話し合うなかで、できるだけ家族の不安を取り除き、要望に応え、信頼関係を築くよう努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	法人内外のサービス事業所との情報交換、連携を心がけ、相談を受けたときには、本人、家族の話をよく聴いた上で、認知症デイサービス、小規模多機能、訪問介護等の他のサービスの情報も提供している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は利用者の喜怒哀楽の感情が大切なものであると認識しており、利用者を人生の先輩として尊敬し、生活や子育ての知恵、慣習などを学ばせてもらいながら、支えていくように努めている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の精神状態や健康状態の変化等に家族と共に一喜一憂し、家族と対等な立場で、連携・協力して本人を支援するように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族等の写真、利用者が愛用していた小物、身の回り品、備品等の持ち込み等も家族等にお願いしている。ご家族が面会に来た際に一緒に写真を撮り、プリントして差し上げたり、日常の様子を撮った写真を送るなどして関係継続の支援に努めている。	入居者の生活歴や馴染みの関係はアセスメントや家族からの聞きとり等で把握している。行きつけの美容室の利用を家族対応で継続し、入居者を知人が訪ねてくることもあり、地域や知人との関係性が途切れないよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食堂やリビングでの座席配置なども調整して、利用者同士が孤立したり、衝突したりなどしないように気配りをしている。状況によっては職員が仲介してなごやかな雰囲気を作り出すように努めている。		

沖縄県(グループホームさつき荘)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが利用が終了しても、築き上げた関係を継続できるようにしている。入院による退所者を退所後も定期的に見舞いに行ったり、死亡による退所者の家族から、役所との手続き代行などを受けたりしてしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の職業歴や生活歴をできるだけ情報収集し、日常の係わり合いを通して本人の現在の希望や意向を把握するようにしており、可能な限り本人の希望や意向にそように努めている。	職員は日常のケアの中で、入居者の思いや意向を把握している。把握が困難な場合も、入居者の表情や睡眠状況、食事摂取量、動き等を総合的に判断して対応している。家族の情報で好みの銘柄のお茶に変更し、水分摂取量が増えた経緯があり、一人ひとりの希望に沿った支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や支援者から積極的に情報を得るようにしており、日々のかかわりの中からも本人のことを理解するように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	健康チェックや生活記録、申し送り、職員同士の情報交換から利用者の現状・変化を把握するように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族と話し合いをもち、必要な場合は他のサービス事業者の関係者からも情報を得て、介護計画を作成している。職員で話し合い、意見交換も行い、対策、留意点を記載している。	介護計画書は、家族や職員、関係者等が担当者会議で話し合い作成している。入居者の状態に応じて、その都度ミーティング等で話し合いケアの見直し等に反映しているが、見直し後の計画書の作成やモニタリングの記録を整備していない。	定期的なモニタリングの実施記録や現状に即した介護計画の見直し等、入居者一人ひとりの課題や目標にそった記録の整備が望まれる。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の日々の様子や変化などを個別に記録することで、情報を共有し、日々の支援や介護に役立てて、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況、要望に応じて、可能な限り柔軟に対応、支援するように努めている。		

沖縄県(グループホームさつき荘)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現在、行っていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	日々、看護師に心身状態を報告し、必要時にかかりつけ医を受診できるよう支援している。かかりつけ医での定期受診の際などに必要に応じて健康チェックのデータなども準備して診断の参考にしている。	入居者や家族と話し合い、同法人クリニックの医師をかかりつけ医として職員が受診に同行している。他科受診の場合は家族対応となっているが、都合のつかない場合や緊急時には職員が支援している。看護師が医師と密に連携を図り、家族へは電話や面会時に口頭で情報を伝えている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	身体面、精神面を観察しながら、変化が感じられた場合は、同法人医師、看護師に相談しながら、支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時の状況を家族、病院の相談員と情報交換を行いながら、退院に向けての支援を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化の兆しが見られた場合、次の対応を適切に行えるよう、なるべく早い時期から家族や主治医と話し合いを持つようになっている。病状が悪化した利用者について主治医・家族とも話し合いを持ちホームでの看取りを行うこととなったケースがあった。その旨、主治医、スタッフ、家族が対応していたが、対応が難しい点もあり、最終的に診療所への入院となった。	事業所で看取りが実施できるよう医師や看護師と連携し、統一方針について話し合っている。また、重度化についても入居者や家族とも早い段階から、重度化した場合のケア方法についても繰り返し話し合っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	主治医、家族、救急への連絡体制をとっている。応急手当や初期対応の訓練などは法人としても計画中である。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	現在、まだ行っていないが、避難経路図等を作成・掲示し、職員に周知するようにしている。設備の面では、火災時により安全に非難・対応ができるように、スプリンクラーと防火扉を設置している。	事業所内の設備として、スプリンクラーや緊急通報装置を設置している。避難用マニュアルを作成し、消火器や懐中電灯等の備品も準備しているが、避難訓練は実施していない。	避難訓練を消防署協力の下で年2回、昼夜を想定して計画しているので、早期の実現に期待したい。

沖縄県(グループホームさつき荘)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に利用者を尊重し、誇りやプライバシーを守りながら、対応を行っている。記録、写真、その他のプライバシーに関わる個人情報の取り扱いは十分に留意している。	入居者が判断しやすい言葉かけを心がけ、職員は確認してからケアに臨むよう努めている。管理者は職員の気になる声かけ等は、その場で注意している。入居者個別のファイル類は事務室のキャビネットに保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が自身の気持ちを表現できるよう働きかけたり、事柄に納得して自己決定できるよう支援している。利用者の希望に添えない時にも本人が納得できるまで説明を行なっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	洗濯物たたみ、おしぼりたたみ、もやしのひげ取り、ちり紙たたみ、歓談、コーラス、民謡・琉舞などのビデオ鑑賞など生活リハビリや娯楽をとおして、基本的に利用者が望むこと、楽しめることを一人ひとりのペースを大切にしながら誘導・支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その方の以前の生活に合った身だしなみやおしゃれができるように配慮している。理容、美容について家族と本人の意向により選択してもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの能力を活かしながら、楽しみながら一緒に準備や食事、片付けを行ってもらっている。役に立っているという充実感を感じてもらえるよう感謝の言葉をかけることを心がけている。認知症の進行、歩行機能の低下などで準備、片付けなどが難しくなっている利用者が増えているのも実情である。	食事は法人の管理栄養士が作成したメニューを基に入居者の好みの食材等を取り入れて、職員が交替で調理をしている。入居者と職員と一緒に調理の下ごしらえをし、食卓を囲んで会話を楽しみながら同じメニューの食事を摂っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士からの助言を得て、献立予定表を作成している。食事量をチェックし、利用者一人ひとりの疾病、身体状況をあわせて栄養摂取や水分確保に努め、栄養バランス、塩分量などにも配慮している。定期的に体重を測定し、増減などにも留意している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時や毎食後の口腔ケアを利用者の状態や状況に応じて支援している。口腔内や入菌の状態を把握し、必要時には家族に連絡し、歯科受診につなげることもある。		

沖縄県(グループホームさつき荘)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のパターンや習慣を活用して、声かけ・トイレ誘導などを行いながら、夜間おむつを使用している利用者でも日中はリハビリパンツを使用しトイレでの排泄を行ってもらう、夜間リハビリパンツを使用しているか利用者に日中は布パンツで対応するなど、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援をしている。	入居者の排泄チェック表を活用して、声のトーン等に配慮しながら確認の声掛けをし、入居者全員が日中は、トイレで排泄できるよう誘導している。失敗時にはシャワー付きトイレで洗浄し、衣類を交換し清潔保持に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日々の排便の状態を把握し、水分や食事、運動などに配慮している。必要に応じて看護師などと相談を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は週3回となっているが、本人の状況や希望、タイミングに合わせて入浴できるように心がけて、支援している。入浴拒否や入浴日の錯誤などがある利用者などには時間を置いて再度声かけをしたり、別のスタッフから声かけをするなどして入浴できるように支援している。	入居者の希望により浴槽を使用し、入浴剤を入れて朝夕毎日の入浴にも対応している。同姓介助を基本としているが、入居者に了解を得て変更する事もある。入浴を嫌がる入居者には、職員や時間を変更して促しているが、難しい場合には家族の協力を得ている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間、良眠をとって頂くためになるべく活動、雑談などを促している。本人からの希望があれば休息を行っている。前日の睡眠状態も考慮しながら休息をとっていただくこともある。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は一人ひとりの服薬介助を行い、それに伴う症状の変化に留意している。服薬の変更などは必ず連絡事項として伝え、確実に実行されるように努めている。薬の目的や副作用などの理解をするため、連絡事項に記入している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の好みなどを家族や日々の生活の中で聞き取り、楽しめるように工夫している。華族からの差し入れもある。一人ひとりの能力を活かしながら、洗濯物たたみや食事の片づけなど行ってもらっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の気分転換を目的に施設周辺を散歩をしたり、屋外で過ごしたりしている。家族と協力しながら外出、外泊の支援を行っている。	入居者と職員がおやつのでんぐらを買いながら散歩へ出かけたたり、家族と美容院へ出かけられるよう支援している。入居者はビーチや神社にドライブに出かけたり、家族と連携して自宅に泊まる入居者もいる。	

沖縄県(グループホームさつき荘)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小額の金銭管理ができる方には本人や家族の希望に応じて所持してもらい、支援を行いながら使っていただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の家族への電話は自由に行っている。電話のかけ方を表示したり、ご家族へも電話の回数が多くても対応してあげてもらおうようお願いするなど支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	照明や音量に配慮しながら心地よい空間作りを目指している。職員間でも意見交換をし、より良い環境作りを目指している。	共用空間の居間には椅子やソファがあり、入居者は思い々の場所で、琉球舞踊のDVDを見たり民謡や童謡を聞きながら過ごしている。また、台所からの、調理時の音や匂いが五感を刺激し、生け花で穏やかな雰囲気をつ工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間に椅子や机、ソファ、テレビなどを配置し、利用者が思い思いに過ごせるよう居場所を工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が自宅で使用した身の回りの物や家族の写真などを飾り、利用者個々の状況に応じてテレビやラジオなども置いて、落ち着いて過ごせるようにしている。	入居者は居室からベランダに出てプランターの草花に水やりや、洗濯物等を干している。入居者はレクの生け花教室で教わった花を居室のテーブルに飾っている。居室はダンス等の家具類、家族の写真や家計図等、入居者が思い出の品を持ち込み、居心地よく過ごせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物の内部には手すりなどを設置し、家具の配置などを工夫し、できる限り安全で自立した生活が送れるよう工夫している		